

平成12年度病害虫発生予察特殊報第1号

病害虫発生予察特殊報は、新たな病害虫の発生が認められたり、発生のかたが例年と異なるなど、特異的な現象が認められたときに発令する情報です。

病害虫名： アリモドキゾウムシ (Cylas formicarius (Fabricius))
作物名： サツマイモ

1. 経過

アリモドキゾウムシの発生が、平成7年11月に室戸市の元川～吉良川西の川の区域で確認され、緊急防除を行った結果、平成10年12月に根絶が確認されました。

その後も、再侵入を警戒するためのフェロモントラップ調査を、室戸市を重点に県内全市町村で年2回実施してきました(県内全体854地点、内室戸市585地点)。

しかし、平成12年10月12日、旧緊急防除区域から直線距離で約2km離れた室戸市浮津周辺フェロモントラップ3カ所にそれぞれ1頭ずつアリモドキゾウムシが誘殺されました。誘殺のみられたトラップは室戸市浮津、室津、領家にまたがる室津川沿いに直線距離で500m以内に集中しています。

この区域を中心に、集中的にフェロモントラップを設置して発生源の特定調査を行った結果、平成12年10月30日現在、8カ所のフェロモントラップに誘殺され、そのうち家庭菜園のサツマイモ畑が発生源の1つであることが確認されました。その他の発生源については現在調査中です。

2. 形態・生態

アリモドキゾウムシはサツマイモの世界的な害虫で、東南アジア、インド、カリブ諸島、アフリカなど、熱帯・亜熱帯地域に広く分布し、寄主植物の多くはヒルガオ科に属し、サツマイモの他に、ノアサガオ、ハマヒルガオ等の植物に寄生します。

成虫は名前の示すようにアリに似た体長7mm程度の黒藍色のゾウムシで、幼虫は乳白色で体長6mm前後のウジ虫です。雌成虫はサツマイモ等の表面に産卵孔を空け、その中に卵を1粒ずつ産みつけます。孵化幼虫は茎内や塊根内部に食入し、食害された塊茎は悪臭と苦みを伴うイポメアマロンが生成され、食用はもちろん家畜の飼料としても利用できなくなります。雄成虫は活発に活動しますが、雌成虫はあまり移動しません。

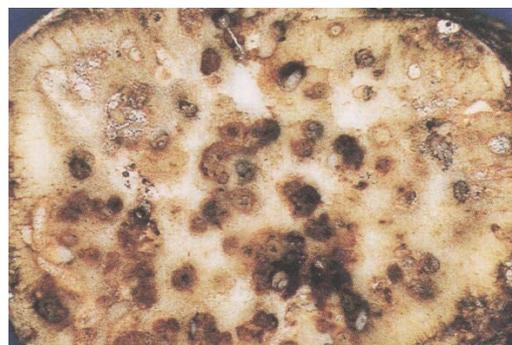
本種は被害が甚大で難防除害虫であるため、植物防疫法で有害動植物に指定され、寄主植物の未発生地域への移出が禁止されています。

3. 防除対策

- 1) 沖縄県、奄美群島、トカラ列島、屋久島、小笠原諸島や外国の発生地域からサツマイモやノアサガオ、ハマヒルガオなどの寄主植物を持ち込まない。
- 2) 発生が確認された場合、蔓延を防ぐため発生地域から寄主植物を持ち出さない。
- 3) 発生調査には性フェロモンを利用したトラップが有効です。

アリモドキゾウムシ成虫

体長6mm前後で一見アリに似る。頭部は黒藍色、胸部と脚は赤褐色、翅鞘、腹部腹面とも金属光沢の黒藍色。



芋の食害痕

幼虫食害による無数の孔道がある。